

第3回府中市次世代育成支援行動計画推進協議会 議事録

日 時 平成19年7月23日(月) 午後2時

会 場 子ども家庭支援センター 「たち」

出席者 委員側 副田会長、岩村委員、臼井委員、小川委員、木下委員、杉村委員、鈴木委員、田中委員、内藤委員、村越委員、山崎委員、山村委員、弓削田委員、

事務局側 川崎子育て支援課長、榎澤保育課長、戸井田児童青少年課長、鳥羽地域福祉推進課長、山崎地域福祉推進課福祉計画担当主査、梶田子育て支援課推進係長、石下子育て支援課推進係員、(株)生活構造研究所

欠席者 平田副会長、岸田委員、佐藤委員、高瀬委員

子育て支援課長

定刻になりましたので、平成19年度第3回次世代育成支援行動計画推進協議会を開催させていただきます。私は本日の進行を務めさせていただきます子育て支援課長の川崎です。よろしくお願いいたします。

出席委員をご紹介します。初めに副田会長、以下順不同で弓削田委員、山村委員、山崎委員、村越委員、内藤委員、田中委員、鈴木委員、杉村委員、木下委員、小川委員、臼井委員、岩村委員、以上の皆さんでございます。なお平田副会長並びに佐藤委員は、まだ、到着しておりません。また欠席の連絡が入っておりますのは高瀬委員、岸田委員です。

本日の協議会は、開催の有効定数である過半数の委員さんのご出席をいただいております。

続いて事務局を紹介させていただきます。榎澤保育課長、戸井田児童青少年課長、鳥羽地域福祉推進課長、山崎地域福祉推進課福祉計画担当主査、梶田子育て支援課推進係長、石下子育て支援課推進係員、また地域福祉計画策定にかかわるコンサルティング業者の株式会社生活構造研究所のスタッフも同席していただいております。

続きまして次第2の資料の確認をさせていただきます。資料1として府中市福祉計画概要版、資料2府中市福祉計画期間、資料3府中市福祉計画改訂の前提と概要、資料4府中市福祉計画改訂スケジュール、資料5府中市の子育て支援に関する計画について、資料6市民意向調査について、資料7平成15年度に実施した近隣市における中高生を対象としたアンケート項目について、以上が本日の資料です。なお、資料ではございませんが、本日の協議会の次第、本日の席次表を配布しておりますので、ご確認願います。資料等の配布漏れ等がありましたらお申し出ください。

それでは協議のほうを開催したいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

会長

それでは19年度の第3回府中市次世代育成支援行動計画推進協議会を始めます。初めに傍聴人についてお願いします。

傍聴について

子育て支援課長

本協議会への傍聴ですが、広報「ふちゅう」で募集をいたしましたところ傍聴の申請はございませんでした。なお今日の資料と議事録につきましてはホームページのほうで公開します。

会長

では議題2について、前回でました質問についてお答えいただけますでしょうか。

議題2 第2回協議会の質問事項について

子育て支援課長

前回の協議会で委員の方からいただいた質問について、担当課長が出席しておりますので、改めて回答させていただきます。

児童青少年課長

第2回の会合を欠席いたしまして申し訳ありませんでした。前回の協議の中でご質問いただいた件についてお答えさせていただきます。まず、放課後教室の小学校の実施状況ですが、4月から小学校22校中3校で試行的に実施しており、基本的に月曜から土曜の放課後の時間帯から午後5時まで、地域の小学生の子どもを学校の特別教室、グラウンド、体育館等を利用して、遊びを中心として放課後の時間を過ごしております。人数ですが、二小、五小、十小で実施しており、3校の在籍児童数は2081名、この内この事業に参加を申し込まれた児童が平均50.7%です。詳細を申し上げますと1年生から3年生は70から80%ですが、4年、5年、6年となりますと少なくなり、6年生で20%いくかないかです。だいたい学童クラブと同じで1年から3年がこの事業を活用しているということです。4月、5月、6月と実施して、1日の平均参加者数は1か所あたり55名が毎日放課後、この事業に参加して遊んでいます。これからの状況ですが夏休み期間中につきましては、学習を中心として、基本的な科目である国語、算数等の宿題を中心に学習活動を行っております。学習に参加していない子は外で遊んでおります。講師については、近隣の大学の学生や、教職をおやめになった方がボランティアで来てくださって

ます。来年の話ですが、この事業は基本的に市内市立小学校22校で実施していきたいと考えておりました、財政的な問題、学校の施設を使用できるかという問題もございますが、基本的には22校で実施していきたいと考えております。

2つ目ですが、学童クラブに障害のある子のすべてを受け入れたという報告は実態と異なるのではないかとありますが、次世代行動計画の116ページには「3年生まで」としてかっこで「障害児は6年生まで」の入会希望児童はすべて受け入れますとなっておりますが、ご指摘どおりで障害児は施設の問題、職員の加配問題がございまして1施設4名までの定員となっております。22校のところに22か所の学童があり、定員数は4名と2名にわかれているため全体で62名となっておりますが、現在65名を受け入れています。4月前に入会を広報で募集したところ、特定のクラブに入会希望が集中するという状況がございました。これは障害がある児童のための学級がある学校では、学童への入会希望が特に多く、定員を相当オーバーするということになりまして、1か所の施設と職員が限定されておりますので、それ以上受け入れるのは現実的に難しいということですが、しかしながら3年生まではすべて受け入れますので、それについては若干目をつぶりまして6名受け入れているということです。他の学童にお願いするというのは、保護者にご相談しまして、5年生、6年生になりますと隣の学童クラブにお願いするというような対応をしてもらうこともあります。それ以外の3年生までは、ある程度現場と相談して定員を上回る受け入れの対応をしています。すべての学童に均等に入学していただくのが一番いいのですが、どうしても偏りがあり、このようなご質問が出たのではと思いますが、基本的には現在65名、ほぼ入会希望の児童については対応できているのではないかと思います。

次に、通所のためにヘルパーを利用している世帯の経済的負担を減らすことはできないものかということですが、現在18名の方が有償でヘルパーさんをお願いしています。65名のうちの18名です。これはちょっと管轄が違うのですが、障害者福祉課に確認したところ、国の制度で移動支援事業というのがございまして、ヘルパーさんへのお金を一部補助するような制度があるのですが、国の見解では教育とか学童クラブについては対象外であるということです。制度的に継続的な事業については対象にならないというようなことですが、先の定例会、議会で一般質問があり担当課で研究していくと聞いています。

4つ目の学校と同じ敷地内に学童クラブがある場合、一回校門を出るのかという問題でございまして、だいたいグラウンドを隔てて、校舎から出て離れたところに学童クラブがございまして、22校のうち7つ学校では校門を出なさいと指導をしています。この考えというのは、学童が基本的には家庭であるというような考え方をもとに、学校と家庭の区別をするということです。その時点で学校を皆と一緒に出て、それぞれ家に帰るという考えが残っているのだと聞いております。ただ、交通やいろいろな問題から危険があるということにつきましては、事務局から当該校長先生にお願いをしまして対応していただいているケースが多々あります。一概にすべてこうだというようなことでない聞いております。以上です。

会長

ありがとうございました。今、4点についてご回答いただきましたが、これについてご質問あるいはご意見はありますか。

委員

学童への障害のある子の移動支援について市議会一般質問があったということでしたが、そのあとちょっと聞けなかったのですけれども、移動支援で行うことをなんておっしゃったんですか。

児童青少年課長

ヘルパーは有償ですので、費用の負担を軽減はできないかというようなご質問があったのですが、この移動支援事業というのは国の制度ですが補助対象がありまして、私は所管ではないので詳しく申し上げられないのですが、そのような制度で学童、学校に行く費用の一部を負担しようという補助事業なんですけど。

委員

移動支援事業というのは自立支援法の中で、市のほうの地域支援事業になると思うのですが、その中で対象にしようということになったのでしょうか。

児童青少年課長

対象にしてもらいたいという議会からの要望がございまして、対象にしていないのですが、それに対して今後それらのことについて全般的に研究していこうということです。

委員

これから検討するということですね。

児童青少年課長

基本的には、現在、補助の対象にしていないのです。

議題3 府中市福祉計画について

会長

それでは3番目の府中市福祉計画について事務局からご説明をお願いします。

地域福祉推進課長

福祉計画の事務局であります地域福祉推進課の鳥羽からご説明申し上げます。

資料の1から4を使います。

まず資料の1府中市福祉計画ですが、福祉計画そのものは厚い資料になっておりますので、今回は概要版ということで全体が概要になっている部分と次世代育成行動計画、子育てに関する部分を抜き刷りで作らせていただいたものを資料1で付けさせていただきます。

府中市福祉計画は資料2で計画期間を表しておりますが、現在の府中市福祉計画は平成15年度から平成20年度までの計画となっております。作りました当初は5年間の平成15年度から19年度までということでしたが、ほかの計画との整合性を図るために1年延長いたしまして20年度までという計画となっております。そのため資料1の中を見ていただきますと例えば11ページ、12ページ等に19年度の目標値が入っておりますが、これは当初作ったときは19年度を最終年度としていたために19年度の目標値が載っています。そのことをご承知おきいただきたいと思います。

この府中市福祉計画は資料2の横長の表ですが、福祉計画の下に分野別計画を包含しております。高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画の分野、障害者の分野、次世代育成の子育ての分野、地域福祉分野の4つの分野を包含したものが福祉計画という形になっております。資料で色分けがしてございますけれども、平成15年度から20年度までの薄いグリーンでぬっているものは、現在動いております福祉計画の中に入っているものでございます。計画期間の関係で高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画はブルーになっておりますが、計画期間の関係で現在福祉計画に含まれているもので、この後に改訂をしたり法の関係等で新たに作ったりしたものはブルーになっております。次世代育成支援行動計画は平成17年度から新しく計画をたてたものです。ページユ色でぬっております。今回、平成20年度で現在の福祉計画期間が終了するものですから、21年度から26年度までの福祉計画をここで改訂作業に入ります。ここに入るのは4つの分野で高齢介護分野、障害分野、子育て分野、地域福祉分野を含んだ形の福祉計画ということになりまして、上下関係ではなく4つの分野を含んでいるものが福祉計画です。

福祉計画については資料3をご覧ください。資料3はA3が2枚と最後にA4が1枚でございますが、福祉計画をお話する前に府中市の計画の元となります府中市総合計画というものがございまして、資料3の1枚目の上半分のたての真ん中に位置しているのですが、総合計画は市の将来の長期的な展望のもとに行政のあらゆる分野を網羅した総合的で計画的な行政運営の指針をまとめたもので、市政の基本となるものです。総合計画のもとに各分野別計画があるという位置づけになりますので、福祉計画は総合計画の理念を生かした形でつくるということになっております。現在、総合計画は第5次府中市総合計画の期間中の前期が今年で終わり、来年度からは後期の計画の期間になりますが、後期基本計画の中で8つの重点プロジェクトが掲げられました。その中の1点目が「子育て支援策を支援

します」ということで、8つの中の1つにこの子育て分野のものが重点プロジェクトとして位置づけられています。総合計画の理念を引き継いだ形での福祉計画、その福祉計画の中に4つの分野、地域福祉分野、子育て支援分野、障害者福祉分野、高齢者保健福祉分野が分野別計画として福祉計画の中に位置づけられています。2枚目の現福祉計画の構成ですが、基本理念は「安心していきいきと暮らせるまちづくり」でこれを4つの計画のすべての基本理念ということで定めております。基本理念に基づき基本的視点を入れておまして、「利用者本位の福祉サービスの実現」「生涯にわたり『自立』を支える福祉の実現」「地域で支える福祉の実現」「市民参加による幅広い福祉の実現」の4つを基本的視点として定めております。先ほどの4つの分野については法的な根拠等を右半分にとまとめてございます。3枚目のA4縦1枚ですが、府中市の総合計画では「心ふれあう緑ゆたかな住みよいまち」という都市像のもとに基本目標が4つございます。基本目標の1番目、「安心していきいきと暮らせるまちづくり」、ここに福祉分野のすべてが入りますので、これを受けた形で福祉計画のほうは、「安心していきいきと暮らせるまちづくり」と基本理念を定めた次第でございます。皆様に子育て分野として次世代育成支援行動計画をたてていただくわけですが、新福祉計画というのは後期の総合計画のもとに、平成21年度から26年度までを計画の期間としてたてることとなります。それぞれ地域福祉分野、高齢者保健福祉分野、障害者福祉分野、次世代育成支援分野の4つの分野の中でそれぞれの計画を検討していただくこととなります。

最後に資料4の府中市福祉計画改訂スケジュールについてご説明申し上げます。福祉計画検討協議会というのは各分野別計画の会長さんと副会長さん、その他の関係団体の方に入っている検討協議会で、7月12日に第1回の会合を開きました。会長さんと副会長さんに入っているのは、4つの分野別計画の検討、アンケートや調整等を必要とする場合には、福祉計画に反映していくということで副田会長、平田副会長にはそういう形で関わっていただいております。ただ次世代育成支援行動計画推進協議会は他の計画と違いまして、他の計画は平成20年度で今の計画が終了しますが、この次世代育成支援行動計画は1年ずれて平成21年度までと他の計画と時間的な差があるので、これから次の議題にもありますがアンケート調査をどうするかとか、そういう点では足並みを同じにできない要素もあるかと思うのですが、今回の福祉計画はどの分野もアンケート調査を実施し利用者の要望等、また実態等を把握した形でそれを計画に生かしていくということになっています。他の3分野は今年度中にアンケート調査を行い、それを反映した形で計画づくりに入って行くということで、今年度、他の分野では3回から4回程度の開催、来年度に入りましたら9月か10月までにパブリックコメントをとる関係で、ある程度の案を策定するスケジュールになっていきます。簡単ではございますが、福祉計画、各分野別計画についてのあらましをご説明させていただきました。よろしくお願ひいたします。

会長

ありがとうございました。これにつきましてご質問はありますでしょうか。府中市福祉計画の中の次世代育成支援行動計画をこの協議会で策定していきましょうということです。私から3つ目について確認させてください。この福祉計画協議会のことですが、会長、副会長が参加しているということですが、私は7月12日も次の9月13日も他の会議と重なっているため出られませんので、そこがどういう内容で話しを進めるのかももう一つ理解できていないのですが、他のところの協議会はパブリックコメントが来年9月にあるということですが、次世代育成支援行動計画は1年ずれるということで、アンケートも今年度ではなく、平成20年度の実施ですが、そうしますと次世代育成支援行動計画のほうは計画原案を策定してパブリックコメントを行うというのはいつごろの計画になるのでしょうか。

子育て支援課長

次世代育成支援行動計画では20年度にアンケート調査を行いまして、その結果を分析、検証し、それに基づいて協議会で議論いただいた中で案をまとめて、パブリックコメントをかけて計画をまとめたいと考えております。時期的には19年度から21年度にまたがる予定です。

会長

そうしますと、この協議会では資料4にありますように、協議会としての意見とかアンケートについての意見を今年度はここで出し合うということで、来年度になったら具体的に調査に基づいて意見をきくということです。今年度この協議会はあと何回開催する予定でしょうか。

子育て支援課長

予定では10月頃にもう1回開ければよいのかなと考えております。事務局の考えでは、次世代育成支援行動計画の後期の策定が21年度ということになりますので、アンケートは20年度に行います。アンケート調査に向けて後期行動計画はどのような姿であるべきかというところを、いろいろ意見を交わしていただいて、それを提言というような形でまとめていただければ方向性も見えてくると思います。従いまして本当でしたら年度内に数回協議会を開いて、来年度も開きたいのですけれども、予算的なこともありますので、誠に申し訳ないのですけれども、資料等は整えさせていただきますが、時期的には次は10月、もし余裕があれば年度内にもう1回と考えております。日程的には来年度4月から5月にかけて集中的に協議会を開催させていただくような日程になろうかと思いますが、よろしくお願いたします。

会長

では、これで福祉計画についてはよろしいでしょうか。続いて議題4の府中市の子育て支援に関する計画について、事務局からご説明をお願いします。

議題4 府中市子育て支援に関する計画について

子育て支援課長

ただいま福祉計画の概要や今後の日程等につきまして報告がありましたが、福祉計画の分野別計画の一つである子育て分野につきましては、次世代育成支援対策推進法に基づいており、それまでの福祉計画に位置付けられていた子育て分野の計画を改訂するとともに計画範囲を拡大し、現在の次世代育成支援行動計画となっております。その辺のところは資料の5で示させていただいております。従いまして、子育て分野の計画は他の高齢者や介護、障害者、地域福祉の3つの分野の計画とは期間を異にして事業が進められることとなります。

そこで、福祉計画の改訂にあたって子育て分野の取り組みですが、現在の次世代育成支援行動計画の終了年が平成21年度ですので、平成22年度から始まる後期次世代育成支援行動計画の策定に向けての理念的なことや方向性、また、後期次世代育成支援行動計画策定に向けて行う市民アンケート調査の項目などをご協議いただければと考えております。

なお、アンケート調査につきましては、現在の次世代育成支援行動計画の策定のときが国からアンケート項目や計画に盛り込むべき事業を具体的に指示してきた経過があり、後期の計画につきましても策定にあたり事前に国からの意向が働く可能性は十分にあるかと思っておりますので、この辺をご理解いただき協議をしていただければと思っています。

なお、次世代育成支援行動計画の大元である次世代育成支援対策推進法は時限立法で、平成26年度までが有効期間となっておりますが、次世代育成支援行動計画の成果次第によっては、法律の適用の延長や同様の趣旨の法律が設けられることも十分考えられることから、国の意向に沿った形で子育て分野の施策展開を考えております。

以上で説明を終わります。

会長

ありがとうございました。資料5に基づいてのご説明でしたがいかがでしょうか。ご質問はありますでしょうか。まだちょっと抽象的で何をこれからどうするのかなという感じですが、先ほどのご説明ですと、アンケートをやってどういうことをしたらよいかというのを議論してほしいと、計画に盛り込んだらいいだろうという理念、要望等についても議論していくということでよいでしょうか。

子育て支援課長

今回の福祉計画の改訂にあたりましては理念的なところは検討協議会のほうでまとめていくこととなりますので、その理念に沿う形で後期の行動計画の方向性を示していただければと思っております。それにあたりましてはやはり現状の子育てはどんな状況にあるのかということをお委員さんの皆さんに共通認識してもらわなければいけませんので、それにつきましては国の資料、都の資料、市の資料等を今後提示させていただいて、皆さんの共通認識の中で、後期次世代育成支援行動計画がどういう在り方なのかということをご協議いただければと思います。

会長

今日は子育ての現状についてのデータはないのですが、皆様方のほうで自由に、前回ご意見をだしていただいたような形で、少し府中市の子育て支援に対してのご意見、ご要望とかを出していただいてから、市民意向調査、アンケートについてもご意見をいただきたいと思っております。今日は自由にご意見をお出しいただければと思います。なかなかとっかかりがないと難しいとは思いますが、勝手に指名させていただきます。社会福祉協議会のほうは福祉計画を担当されると思うのですが、社会福祉協議会のほうで子どもに関してこれまで関わってこられたこと、今後やったほうが良いというご意見がありましたらお願いします。前回、地域の住民グループやサークルが小さい子だけでなく中学生や小学校高学年の子どもたちを対象に、地域の人たちが協力して、教育とか居場所づくりなどを支援していけるように事業があってもいいのではないかという意見が出たのですが、そのあたり社会福祉協議会ではお考えはあるのですか。

委員

社会福祉協議会の活動の1つとして「いきいきサロン」があります。地域のさまざまな方々が集まって、高齢者を対象にサークル活動をしたりですとか、あとは子どもたちを集めて子育て広場を開いたりですとか、さまざまな展開がされていて、自治体活動とは違ったところで地域の方々が主体的に活動しています。今後、市の福祉計画と似た形で、社会福祉協議会では地域福祉活動計画をつくっていくのですが、その地域福祉活動計画の中で、引き続き「いきいきサロン」のような事業を提案していきたいと思っております。

会長

「いきいきサロン」というと高齢者のものと思うのですが、子育てでもあるんですね。

委員

世田谷区でもやっていますが、高齢者の活動が多いのですが、子育ての活動もたくさんあります。そういったものも取り組んでいきたいと思っております。

会長

地域の方がボランティアの形でお子さんを集めて、公園などを使ってグループ活動をやると、そこに補助金、助成金がでますか。

委員

社協の関わり方としては、例えば活動支援の準備をさせていただいて、活動を後押ししています。

会長

活動を推進していく手立ては、社協としてはあるのですか。

委員

そうですね。たくさんの地区でサークル活動が行われていますが、社協として支援をしていくことは可能だと思います。

会長

ご存知でしたか。

委員

知りませんでした。

会長

そういうあるものを広めていくのも1つですね。他にこういうのはどうか、アンケートでやってほしい、出してもらいたいというものはありますか。民生委員として関わってこられていかがですか。

委員

民生委員として関わっておりますのは次世代育成支援行動計画ができる前からですが。子ども家庭支援センターのような相談機関ができる前は、育児ノイローゼから、命に関わる事件や事故が市内でも起こったことがありました。子ども家庭支援センターができてから地域交流事業も活発になっておりますので、育児に行き詰まるとの事件や事故は少なくなっているように思います。今は子どもに対しての虐待、ネグレクトを含めて、多くなっているように感じます。母子所帯、父子所帯、夜遅くまで働くご家庭にどういう関わり方ができるかということで、なかなか難しい問題です。民生・児童委員がご家庭に入るとなると、よほど長期にわたっての信頼関係が生まれていないとできません。経済的な破綻が

ら、そのようなことになる場合もあります。

会長

虐待の恐れ、リスクを持っているといった家庭でしょうか。

委員

そう思いますね。以前よりそういうご家庭が多くなっているように思います。

会長

それはひとり親のご家庭が目立ちますか。

委員

多いように思いますね。

会長

ひとり親のご家庭の実態、支援はまた次回でしょうか。

子育て支援課長

府中市のひとり親世帯は年々増えています。ひとり親家庭に対する手当でも増額傾向にあります。委員さんがおっしゃられた通り、ひとり親家庭でも心配となるのは、今の就労が多様化しておりまして、親が夜の仕事で昼間は子どもの面倒が見られないということで、子どもは不登校になってしまったりですとか、ネグレクトの状況におかれている、そうしたご家庭の事例がかなりあげられています。これからもお話をさせていただきますが、ひとり親家庭にいかに行政が関われるかといったところが、大きなポイントになるのかなと認識しています。

会長

生活保護も母子加算への風当たりの厳しさ、児童扶養手当の削減など、大変な状況になっておりますので、アンケートなどでひとり親家庭の実態を把握することは、重要になると思います。他にいかがでしょうか。それぞれのお立場でお願いします。

委員

ひとり親家庭と、それから例えば3歳以下のお子さんをお持ちの家庭は、地域として自治会でお役にたてることをやりたいと思っても、どこにどういう人がいるのか分からないんですよね。これは高齢者も同じなんですけれど、行政に問い合わせると個人情報の問題があるから教えられない。高齢者の場合は、老人会である程度わかるのですけれど、

老人会に加盟した人だけの話であってそれ以外の人は分からない。ましてや子育ての小さいお子さんのいるご家庭は分からない。小学校に入ると見えてきます。校外委員の方々がいらっしゃって、その人たちも自治会の会合に出てもらっていますので。だから自分の自治会で、どこの小学校で何人という、例えば私のところでは、それぞれ何名というのはつかんでいて、小学生がどこに住んでいるかもマップ上に全部おとして分かっています。それよりも小学校に入っていない、まだ幼稚園だとか保育所にいつているお子さんをお持ちの方というのは、まったく分かりません。今、私のところで災害対策をすすめています。今年に入ってから大きな地震が3か所ほど起きています。今回の中越地震でも10人亡くなっており、高齢者ばかりでしたが、過去の災害ですと、やはり小さなお子さん、幼児と高齢者と両方ですね。何かそういった災害のときに、すぐに救いの手を差し伸べられるような体制を自治会として組みたいと考えています。近く、実態調査を自分たちの手でやろうかと計画しています。以前は交番におまわりさんがいて、それぞれの家庭の実態調査をしていましたが、最近は全然まわってきていません。問い合わせしてみたら、そのリストがどうも整備されていないようです。そうしますと、今の実態がつかめないわけです。地域社会として自治会として児童、子育て支援に対して、どんな手が差し伸べられるか悩んでいるところです。

委員

うちの小学校でも毎年お楽しみ会に、自治体から地区班に補助をいただいています。ところが、それをいただくのに名簿をお渡ししなければならないということで、来年から辞退することになりました。そうすると、また、そういった形で地域というか自治会には地域の子どもの情報が入らない。私たちもお金がいただけなくなるので夏休みのお楽しみも縮小ということになります。学校の予算で1人200円くらいで何かをなさいということで、結局、地域同士、近所づきあいがまた縮小することになってしまいます。自治会とのつながりで、「ご協力いただき、ありがとうございます。」というやりとりが来年からはなくなってしまう。

委員

各自治会でもかなり異なり、自治会連合会という上部組織でもよく議論になりますが、自治会によっては名簿を作成しているところもあれば、個人情報ということで名簿の作成を取りやめている自治会も増えています。地域に住む人たちの人間関係、ふれあい、絆もだんだん薄れてきています。ここにも「ふれあいを通じて」と、ちょっと書いてあるのですが、これは東京都もだいぶ考えているようです。ですから、今度、自治会活動に東京都はお金を出してくれます。新たな制度で「地域の底力再生事業助成」として、自治会の連合組織として取り組んだ場合に1事業最大で100万円までの助成があって、1つの自治会だけで何かやっても20万円を上限に助成してくれます。それはあくまでも、子ども達

を中心にあるいは高齢者を中心に、ふれあい、絆を深める事業展開についてですが、お金を出しますよということを打ち出してきています。しかし、今のお話のようにだんだん離れて行くので、自治会としても悩んでいます。

会長

せっかく地域でつながろうとしているのに、個人情報保護法に対する考えが壁になっているのですね。

委員

個人情報保護には過剰反応しすぎだと思います。学校でも連絡網が縦1本であり、クラス全体のものがない、方向はいろいろあるのですが1列しかもらえません。中学校では校外委員では校外地区に誰がいるかもわからない状況になっています。地区で何かをする時に連絡できなければどうしようもないと言うのですが、やっぱり個人情報で、少数ですが文句を言う人がいるので、反応する学校があるわけです。先生方が一番困ることなので、仕方がないと思いながらも地区に誰がいるかもわからない状況と、クラスで子どもたちが遊びに行くにも電話番号もわからないという状況になっていることは事実かなと思います。また地域の自治会においては、連合会も苦勞なされているとは思いますが、私は新町のほうに住んでいるんですが、新町とか天神町とかあの辺だけで100の自治会があり、そうすると例えば1つの学校で自治会に対応を求める場合、どこに頼めばいいのか分からず、40、50ある自治会に関わらなければならない問題も出てきています。あと先ほど言っていた補助金も、小学校のある地区では自治会から補助金がもらえる、こっちはなくてPTAの100円、200円の予算でやっているという状態で、学校の中でも地域格差が出てしまうということがあります。自治会も大変なので、子どもにやるお金はないという動きもあります。地域と連携をとるべきだと言いますが、この間もちょっとお話をさせていただいたんですが、PTAだって地域の人という認識がPTAのほうがなくなっているのかなと感じていて、PTAはそこにいる人なので地域の人でしょという認識がないから、余計に自治会の行事に参加するという意識もなくなっているということを感じます。いかんせんどうしたらいいのか、後期計画は大変だと痛感しています。

会長

地域で人とつながるといのは、子どもがいることが媒介になってつながっていると思うのですが、そこがお互い同じ学校に行っているらしいけれど知らないという状況になって、どうやって地域の感覚をもっているんですかね。

委員

P T Aの行事には一生懸命参加するけど地域の行事には行かない。P T Aだからという、P T Aはあなた地域の人よ、そういう感覚ですよ。自治会が多すぎるから精査してよという話になってしまうんですよ。学校の校外地区班が自治会になってしまうのがいいと、私は思ってしまうんですよ。その辺から抜本的に変えていかないと自治会には補助金が出ない、5、6人、10人くらいで自治会を作っている場合もあります。補助金がだめだとわかりませんが、郊外地区班ごとで自治会になったら一体になれるよね、全部一緒だねって思うんですよ。

会長

きれいに地区割りが出ていない。

委員

今の人は、「私はそこ関係ありません」と平気で言う方もいらっしゃるの。

委員

今おっしゃったようなことは若いご家庭が多いと思います。私の地区では、毎年、中学校、青少対、地域の人、学校の先生などが参加して、夏休みに入る前に夜に会合を開いています。しかし、私はつい最近参加したのですが、自治会長や民生委員や青少対の方のほうが多く、父母の方は毎年同じ方しか出てらっしゃらないし、結局役員が出てらして、今回も6対4でP T Aが少なく、地域の自治会長とか民生委員のほうが多いくらいでした。夜回りをして、私の自治会では高齢者が出てきます。おばあさんがお子さんを連れてたまに出ることもありますが、自治会が呼びかけても若い人はなかなか出てきません。若い人は忙しいし働いている方が多いので、夜11時に行ってもお会いできない方もいらっしゃいます。民生児童委員活動もそういう現状で、いつ行ってもお子さんしかいない家庭もあります。

会長

地域は高齢者がみるよ、若い人は働いていいよ、と。

委員

子育てに行き詰まったお母さんが精神を患ったりしてしまうこともあり、そのような家庭に関わっていくのは非常に難しいです。門戸をあけるのが難しいです。何度も訪問しても関われない場合もあります。

会長

関わりにくい。一般的にもそういう関わりにくさがありますか。

委員

それに対しては保育ママのような制度があります。江戸川区でやっているそうですけれど、子育てが終わったお母さんがこれから子育てをするお子さんの面倒をみてあげるといふ、この間、新聞に出ていましたけれど保育ママとして200名応募しまして、200名の方でこれまで16000人くらいのお子さんを育てて送り出しています。江戸川区はモデル地区ですが、府中市はこの間の説明ですとほとんど機能していませんよね。この制度は非常にいいのではないかと考えて、新年度はもっと力を入れるべきだと思います。子育て家庭で共働きも増えてきていますから。

子育て支援課長

保育ママは以前制度として行っていました、実態的にだんだん需要がなくなって消滅しました。また、里親制度は東京都がやっておりますけれど、児童虐待を受けた児童が保護施設に預けられますが、家庭に戻れない場合、施設で養育するよりも家庭のほうがよいということで、東京都が進めている養育家庭制度が里親制度ということになります。一定の子を預かった場合には、東京都から助成金も出ます。

会長

里親も必要かと思いますが、府中市の次世代育成支援に向けて、他にご意見いただきたいと思います。

委員

私のファミリーサポートは、地域の方々とつながっている事業だと思います。依頼する人と提供する人は、ごく近くの方同士がと関係をもつということになっております。活動にはお金は生じるんですけど、それだけのつながりではなく、例えば子どものことでちょっと心配ごとがあったときに、先輩の母親として相談にのったり、子どもに関するだけでなく地域として例えばどこの病院がいいのかなど教えてあげたりということもあります。なかなか、今の子育て家庭の方は、地域のつきあいができなくて隣に誰が住んでいるのかも分からないような中で、この活動を通して心を開いてくださったりしています。いい関係で活動していらっしゃる方がとても多いです。大勢の中で心を開くのはすごく難しいけれど、1対1の中で、府中市がとりもってくださった間がらであっても、預かってもらうときはお金を払うという合理的なかわりの中では、心を開いたり遠慮なく話しができたりしていると思います。

長時間保育が始まって保育所も8時までお預かりしたり、朝も早くからお預かりするように段々なってきているのですが、本当のところ親は、それだけ長い時間子どもを預けてまで働きたいと思っているのでしょうか、それとももっと会社や社会が子どもといる時間

を重視して何か配慮してくれたら、それはそのほうがいいと思っているのか、そのあたりをアンケートなどで聞いていただきたいと思います。8時まで預かるとなると10時におやつ、昼も保育所で食べて、おやつも保育所で食べて、夕ご飯も提供されるので、1日のうちで朝ごはんを食べさせてこない子は親の作ったごはんを1度も食べないで月曜日から金曜日まで過ごしているという子が出てきてしまうということについて、親はどう思っているのか、そういう子育てについて親はどう考えているのかを知りたいです。

委員

私どもの保育園と関連するお話だからお答えしようと思います。それぞれ考え方が違うのですが、それぞれお子さんを思っている気持ちは同じだと思うんです。私どもがちょっと感じているのは親子のつきあいが狭くなっているということです。休みになるとディズニーランドに連れて行くことが親にとっての誇りにもなって、この間ディズニーランドに行ったよというのが保育所の中でも話題になります。お父さんとトランプをやったとか、抱っこしてもらってすごく嬉しかったという話もたまに聞くのですけれど、そういう親子の遊び方、育て方が少なくなって狭くなっているような気がします。朝8時から夜8時まで働かなければいけない家庭もあるかと思いますが、そういうお子さんが、意外とフランクに親子がつきあっている感じがします。

会長

ディズニーランドに行くことは子どもにとって嬉しいので、あの娘が行ったから私もなっているかもしれませんね。

委員

ディズニーランドに行くことが悪いとは言っていません。来週連れて行ってやるよと子供と約束することがちょっと違うかなと思います。帰ってきて寝ていても抱きしめることに価値があると思うんですね。わざわざ起こして遊ぶことは、それは遊び方、つきあい方が違っているような気がしています。お父さんのぬくもりを子どもが感じないかもしれないが、そういうことを残してあげると子どもは気持ち的に安定するだろうと思います。何かしなければいけないというのは違うような気がします。感想的な話ですけど。

委員

本当に困って、ひとり親で経済的に大変だという方もたくさんいらっしゃる、そういう方たちに本当に支援をして欲しいと思います。言っているかわからないけれど、余暇を求めため、ディズニーランドに行くにはお金が必要ですね。そのために働くのだったら働かないほうがいいんじゃないのとか、今いろんなゲームとかそれを買うため、どっか連れて行くだけでなく、物を買ってといわれたらいいよと言ってあげるためって、そ

れはちょっと親子関係が違うんじゃないかなと思います。今実際子どもたちが遊ぶとゲームで遊んでいる、ふれあって遊んでいないんですよ。みんなで集まってゲームをやっている、不思議でしょうがない。自分の子どもも中2ですけどそういう状況です。基本的には親は自分の手で育てたほうがいいし、抱っこもしてあげたほうがいいし、病気のときは休んでみてあげたほうがいい、でもやっぱり社会情勢や会社はそういうわけにはいかない。そこからまず変えなければいけないだろうし、その前に本当に働く必要があるのか、幼稚園、小学校、中学校までは義務教育だからそんなにお金がかからない。うち今、大学生の子どもと高校生の子どもがいて、私立に行っちゃうと本当にお金がかかる、働かなければいけないのは今だよという、小さいときはそばにいてあげるほうがいいんだよねっていう、親が我慢しているのかなというところを感じてしまう。ベビーカーをひいているお母さんたちの姿を見ていると、小綺麗にしていたりとか、そういうのを見ると自分の頃はトレーナーも破け状態で、髪も何もできなくて、そういうのが今ないのかなというのを感じています。私は15年、20年前に子育てしていましたが、ヒールはいてベビーカーをひいていなかった。くだらないかもしれない、その人がきれいにしようというのはいいんですけど、そっちにけるんだったら子どもと一緒にいてという感覚はないのかなっていう。「たち」に預けて買い物に行くのも映画に行くのもいいけれど、子どもが小学校、中学校、高校になればいずれは自分ひとりになっちゃうのだから、今じゃなくていいんじゃないかなというのを感じています。だから、どんな支援が本当にいいのか。しかし、虐待とか、親がノイローゼになっちゃう場合もあるのでケアは大事なんですけれど、その見極めというか、本当の支援は何かなというのを感じてしまいます。すみません。

会長

それぞれの考え方も感じ方もありますし、ひとつのご意見だと思います。

委員

地域ぐるみの子育て支援も大事だなと思うんですが、アンケートも地域のかかわりとして何を要望しますかというのを逆に聞いていただいたほうがいいのかなと思うんです。今老人会に入っております、自治会の中の老人会ですけど、なかなか接点もない状況で、老人会の方で民生委員のお世話になっていらっしゃる方がいらっしゃいますが、その会の中で励ましあいながら楽しくやってらっしゃるし、実態が見えるという部分もあるんですね。それに対して子育ては本当にわからない。マンションが増えていて、あるマンションに行きましたら自治会のやっていることが全部分かるような書類が掲示板に貼ってあるんですね。すごいなと思いました。今やっていることが住民にすぐに分かるようになっていきます。また、あるマンションでは貼り紙はあまりしていないという状況があったりします。広報活動というか、どこがお知らせして、どういうふうな関わりがあるかお知らせしていかないと何もわからないという状況がありますので、ちょっと1つの例だったんですが、

マンションでもこんな違いがあるんだなと思って、そういう開放されたマンションは、情報がすべてわかるということで、子育てに関しても力が入っているのではないかなということだと思っています。

会長

若い子育て中の親御さんたちが行政に何を期待しているのか質問をしていきたいと思えます。

委員

子育てにしてもこういういろいろな手立てにしても、どういう方たちを対象にやっていくのが一番大事かなと色々な意見を聞いて思ったんですが、今、子どもたちを見ていて昔と違って非常に子が少なくなっているし、いろいろな機関でいろいろな手立てができる場がありますよね、そういうのができることはありがたいのですが、逆に大人が手をかけすぎているいろいろなことができなくなっている子が増えちゃっているなと感じるんですね。例えば6年生に春の遠足は秋川に現地集合させています。ところが6年生になっても一度も自分で切符を買ったことがないという人が何人もいますよ。事前に買いに行く練習をしています。それが現実なんですけれど、連れて行くと、ここにはきたことがある、けどどうやってきたかがわからない。要するに車で行って車で帰ってくる。今の親はパーベキューとかにけっこう連れていっているんで、子どもはそういう経験があるんですが、どう来たか絶対分らない。時間をかけて労をいとうようなところにはあまり連れて行かない、例えば高尾山なんかに行くと初めて登る子がたくさんいる。ケーブルで登る場合もあるんですけど、でもディズニーランドには行っている子は多いです。子どもたちは物見遊山的な経験がたくさんあるんだけど、体力を使ってやり遂げたですとか、そのような感覚を味わっていない。中には、働いている、働いていないからではなく、1年になっても自分で着替えができない子が、前より増えていると感じます。いろいろな大人の手立てはいいんですが、そういう手立てを作ったときに、先ほど出たように学童があってその後10時まで預けて、いろいろやってくれるのはいいのですが、親のほうの考え方として、どういうことをさせるかによって、子どもは自立が目的だと思うので、そういう観点で考えていかないと逆に子どもたちの自立の能力をどんどん奪ってしまっているという部分はずいぶん多いなと、最近子どもたちを見ていて感じています。厚い手立てはいいんですが、どういう人たちが困っていて、どこに重点的にやっていったらいいのかなということも考えていかないと、一律に考えてはいけないと感じています。

会長

重点的に施策をとということですね。本当にそう思います。私の感想ですけど、次世代育成は、もちろん児童虐待などの重要な問題を支援するということもありますが、でも出

生率をあげたいということもあるので、一般の子育ても支援していきたいということもあります。ですから、その中身が大事です。

委員

私のところは子育てとか介護を多くやっていますし、特に府中市の計画にのっとってスタートしている産後サポート、虐待の子のサポートなどにも関わっていますが、やっている現場としては、制度があるのは大事だし、それをなるべく活用するように情報提供なんかしながら関わっていますが、今おっしゃったみたいに、実際にサポートに入って、あれっという場面があります。自分の娘も38、9歳ですが、子どもたちを含めて子育てを見て育っていない。今のお母さんたちは私たちの経験からすると、あれっと思うことがあって当然という気持ちで関わります。実際入ってみると、地域がないし、親族や親御さんたちが遠くにいる方がよく利用されるんだけど、きつい子育てをしながら働きながら頑張っているんだなというのが感想なんですよね。だから、ゆったりした親が育てていないからゆったりしていない、それがヘルパーが入るようになって、ほんの一部しかお手伝いしていないけどお母さんやお父さんが安定してくると子どもたちも安定してくるのが分かります。お母さんたちもほんの手助けだけれど、自分もこんなに楽になるんだと感じられるらしくって、産後4か月くらいのお子さんのお手伝いをしたんですけど、1年ぐらいいして思わぬ手紙がきたりして、こんな風になったのはあのときのひっちゃかめっちゃかだったときを寄り添ってもらったからだというお手紙がきたりしました。お誕生会に招待されたりすると非常に嬉しいのですが、そういう仕事なんです。現実には子育てを見ていないお母さんたちが本当にノイローゼ寸前になって、私たちは保育だけで入るんじゃなくて、契約している2時間なり3時間なりは主婦としてできるすべてのことをするんですね、掃除もすれば料理もすれば保育もする。だけど預かっている命が一番優先だからということで、危険のある場合は他の仕事はしないけど、だいたい共働きの人は朝ばたばたと出て行くけれど、それを全部お掃除して片付けて夜のご飯も支度してその間保育して、お母さんが帰ってきたらすごく綺麗になっていて、ご飯も自分だったら1品くらいしかできないのが3品、4品あるので、子どもたちもよく食べるようになったとか、そういう毎日の積み重ねですけど、その中でしみじみ思うのは、私もこの一員となって2、3年かかっていますけど、前回申し上げたと思うんですけど、制度ができてそれがなかなか活用できない場面ってあるんですよね。その辺を工夫して、行政の人も国の人も私たち関わる人も発想を転換していかないと、こういう制度ですからということで阻まれちゃう場面がいっぱいあるんです。私たちは介護もやっていますから、命を預かっているんですが、いつも入っているけど行ったら鍵がしまっているというときに連絡が取れないから高齢者支援課に連絡したりすると、個人情報なのでお教えできませんということで、その後違うところから情報を得たのですが、亡くなってしまったケースとかもあります。こういう役職をやっているから、つながっている部長さんとかに直接行って連絡をとってもらって、命

を救った場面もあつたりしました。そういうことがたびたびなんですね。介護保険にしても子育て支援にしても、国はどんどん指示をおろしてきて、この数字を埋めなさい、あしなさいこうしなさいと言ってくる。それをこなさなければいけないというのはよく分かっているけれど、ある時ちらっと一緒にやっている役所の方の一言が気になったのは「子育て支援にもっと夢をもってやりたい」とポロっと本音をもらした方がいらっしゃるんですね。もっと夢をもって子育て支援を真剣に考えなくては、子育てを楽しんでください、産んでくださいということにならないと思います。現場を通してとても感じているので、不満のような意見を言うてしまうんですけど、その辺を大事に制度が活用できるように行政の連携を見直していただきたいと思います。こういうふうに席を並べているけれど、冒頭にご説明されたけれど10月というけれど、果たして10月だけで、その前に資料をいただくというお話でしたけど、どの程度いい意見を出していけるのかなととても疑問に思います。本当に国が、自治体がやる気ならば、予算があろうがなかろうが、あるようにしていただかなければ困るけれど、万が一ない場合は、私たちに関しては時間の手当をいただいているようだけれど、なしでもやるぐらいの覚悟でこの計画にかかわっていきたいと私自身は思うんですね。とても葛藤しています、参加していて本当にいい計画が出せるのかって思うので、時間をかけるべきところはかけて、今日のような自由にお話しをするということはあまりないですよ。聞かれたら答えるというような形式じゃない部分を設定していただいて、本当に夢を持って子どもたちに接したいということをきちっと話せる雰囲気の中で、こういうこともきちっと事務的にこなしていきたいと私はいつも思っております。今日の時間はありがたかったかなと、皆様のご意見が聞けてありがたかったかなと。感想といろいろまぜてすみません。

会長

ありがとうございます。いいものを作っていきたいということです。

委員

中学生や高校生のボランティアについて知りたいのですが、学校で指導しているのですか。今年は申し込みがすごく多いんですよ。

委員

職場体験ですか。

委員

そうです、職場体験です。

委員

職場体験も含めて高校生まで、今度はボランティアが正規の単位になりました。小学生は職場体験なのですが、中学生からは正規にボランティアを教科としてやらなければいけなくなりました。今年は算数教師ということをやっているのですが、そのボランティアを府中工業高校にお願いしたら、1年生が5人ずつきてくれて、子どもに教えてくれています。高校生にボランティアをさせるというのが正規の授業で位置づけられました。

委員

知らなくて申し訳ありませんでした。今年は多いなと思っていました。人材活用というか、団塊世代の活用とかいろいろな話がありますけれど、たくさんの方が集まってもなかなかうまくいかないものしょうから、社協さんに音頭をとってもらおうと私どもも協力しやすいし、音頭をとってくれる人材をどっかにつくっていただきたいと思います。

会長

ボランティアを組織するということですね。

委員

社協は手いっぱいでしょうから、他の機関でできるといいのではないかと思います。

会長

前回もいろんなところで調整する役の人がきちんとしてほしいというのが出ていました。

委員

調整役というのは、今の行動計画を作るときの協議会でも意見として出ました。縦の流れがちゃんと通っていないとか、市の情報が文化センターに流れていないので、地域の住民に情報が流れるようにした方がいいなどの意見がありました。やはり流れが続いていると思うので、今回も今後のことを考えてアンケート調査をするのでしょうか。項目はどのようなのでしょうか。前回もいろいろな案が出ていたのですが、具体化するまではいきませんでした。

会長

前回関わっていなかったので分からないのですが、具体的な案が出たのですか。調整するところは例えばどういうふうにするという案だったのですか。

委員

もう少し具体的な意見が出ましたね。

委員

文化センターで情報を開示するという意見です。市民が文化センターにいったら、子育てに関する情報がすべて手に入るようにするということです。

会長

それは実現したのですか。

委員

まだ、実現はしていませんね。様々な事業の取組みが計画にはありますからね。次世代育成支援行動計画の策定の会議に出ておられましたが、そのような話がありましたよね。

委員

そうです。

会長

なぜできなかったのかということを反省しないといけませんね。

委員

文化センターは生活文化部ですし、子育て支援は子ども家庭部ということで、子育てに関するリーフレット等は置いてあっても、子育てに関するすべての情報となると、現状では難しいのかもしれない。

会長

次世代育成支援行動計画は、青少年課も含めて、すべての課がやることになっているので。

委員

商工会議所という立場から何回か出させていただいているんですが、商工会議所と福祉計画のリンクのさせ方がなかなかわからない状態です。私どもの商工会議所は工業と商業、最近は医者、弁護士、幼稚園なども会員になってくださいという勧誘の中で、どちらかという事業を起こしている事業者の集まりで成り立っています。底辺を考えると、そこで働いている人を見ると、「安心して豊かな暮らしができる人であれ」と経営者は思っているのですが、全員が府中市内の勤務者ならいいのですが、やはり市外から通っていらっしゃいますし、どこまでおさえて、例えばアンケートをとるにしても声が聞こえるのかなという疑問点と、府中市は商業の方がほとんどであり、お父さん、お母さんが中心となって経

営している事業が多い中で、子育てをしながら経営をしているという形を考えると、そういう人たちにターゲットを絞って困っていることはないのか、何か役に立つことはあるのか、という見極めができるということで、今後のアンケートの推移を見ながら、商工会議所として安心して暮らして豊かになっていただきたいということで、今後の商工会議所の方針として受け止めていきたいと思います。そのような気持ちで参加させていただいておりますので、今度の動向を見たいと思います。

会長

ありがとうございます。ワークライフバランスという言葉がありますね。労働時間と家庭の時間をバランスよくとれるよう企業にやってくださいという国からの要請だと思うんですけど、そういうことは事業所の集まりの中で話題にならないのですか。

委員

アンケートというと、売上が上がっているか、経営方針がどうですか、大変ですか、融資の関係はいかがですか、そういうアンケートばかりです。従業員の方のことを考えるアンケートはひとつもありません。商工会議所で府中市に予算要求すると、会館の建て替えで1億円を出していただける。地震があると危ないから一部建て替えるということで、予算要求したのですが、1億補助があるということで。この場で、子育てが大変だなということを勉強させていただいておりますので、お役に立てればと思います。

会長

どういう形でかわっていただけるのか、私たちも考えさせていただきます。

委員

どういう形でお役に立てるのか、やはり従業員の方々のお役に立てることを考えていくわけですが、そんなところで、使ってやってください。

会長

いかがですか。

委員

私たちのNPOでは、小学生をもっているメンバーは夏休みは、子どもが家庭にいますので活動はお休みです。そのため、夏休み、長期休みはサービスを提供する側としては人手が薄くなります。しかしながら、働き方も自分で決定して関わってこうというグループなので、何とか子育てを卒業した世代が子ども達のために頑張ろうという感じでやっているのですが、私たちに依頼が来た時に、ファミリーサポートも勤めるのですが、なかなか

マッチするのが難しいようです。今はいろいろな資源があると思うのですが、ファミリーサポートだけではなく、中長期的に考えて、いろんなことができるグループが育って欲しいと思います。そのためには全体の考え方が変わってワークシェアをしても豊かに子育てができる状況にならないと。私たちのようなNPOで働いて、きちんとした対価をもらうのは難しいので、社会全体の仕組みがもう少し代わる必要があります。もう1つ地域のことが出ましたが、小学校から私立に行っていると本当に小さいうちに地域から落ちるといいうのがあって、そういった部分では、学童にも行けなくて友達もいなくて家に閉じこもる子が多いのかなと思います。それを引っ張り出すようなコーディネーターなのか、仕組みなのか、企画なのか分からないですけど、やってくれるような仕組みが豊かにならないと、ますます進んでしまうのかなと思います。私たちは次の世代として子どもを見ているのだけれど、今の子どもがいずれ大人になるとますます豊かじゃない大人をつくっていくような状況なのかなと感じます。でも、あんまり暗くなるのも問題なので、是非、良い計画を作成して、こういったことを盛り込むという話ができるとういと思います。地域でも自治会のないところも、自治会に入っていないマンションとかもある中で地域って何だろうなというふうに日々思っています。

会長

ありがとうございました。何かありますか。

委員

難しいなと思いますが、環境でしょうね。家庭環境、地域環境、社会環境、ずいぶん変わりましたよね。その中で子どもたちは変わったのかなということ、ほとんどかわっていないと思います。結果的には周りが変わったことで子育ても変わったということです。ですから一回原点に戻らないといけないと思います。人間が生きていく中で何が一番大切なのかということをもう一度振り返らないと、たぶん子どもたちのために何かやったとしても、結果的にうまくいかないと思います。ある施設に見学に行ったのですが、その施設に入ることによって、子どもたちは環境が変わり、心を取り戻して豊かになるそうです。ところが、そこを卒業して家庭に戻るとまた元に戻るそうです。環境はすごく大きいんだなと思います。私たちに何ができるかということ、今日ここにいる人たちだけでも手をつなぐと、一歩前に進むことができると思います。たぶん、ここにいっても手をつないでないと思います。皆さんそれぞれ忙しくて、いろいろな話をするんですけども、話をしてそれでおしまいではなく、問題は、それをそれぞれの組織に持ち帰っていただき、いかに組織として手をつなげるか、府中市全体として考えることができるかということです。そこができると一歩、二歩進めるけれど、そこができないとここで話ただけで終わってしまうのかなと思います。ですからそれぞれ戻って今日の話はいかにできるか、それが一歩、二歩のスタートだなと思います。それができると計画も実効性のあるものになる気がします。

会長

手をつなぐコーディネーターは社協さんがやったださるかもしれません。若いお父さんお母さんが地域に期待しないというか、災害のときとか絶対不可欠なときにつながるしかないのかなと感じました。具体的なアンケートをどうとるかというのは今後の課題ですが、次回のところで府中市の子育て状況について共通認識をもっていただくということです。その状況を踏まえて、皆様からご意見をいただきます。

委員

どういう人を対象にアンケートを実施するのですか。

子育て支援課長

今後、国のほうの考え方が示されると思いますが、少なくとも18歳未満の児童を対象ということで、前は小学生まででしたが、今回は中学生あるいは高校生も含めた調査をしたいと考えております。

会長

議題の5、6を含めて簡単にご説明願います。

議題5 市民意向調査(アンケート)について

議題6 中高生へのアンケート項目について

子育て支援課長

貴重なご意見ありがとうございました。後期行動計画に反映させていければと思っております。それに対しましても事前のアンケートが大変重要になってきますが、資料6の3のところ、後期次世代育成支援計画の調査につきましては20年度に調査を実施させていただきます。現在考えておりますのは就学前児童のいる世帯、小学児童のいる世帯、そして中学生、高校生を対象としたアンケート、また母子家庭の児童扶養手当の減額、生活保護家庭の母子加算の減額とか、国のこれまでの手当で主導の経済的支援から就労も含めた総合的な支援というように軸足が大きく変わっていますので、ひとり親家庭に対してどのようなニーズがあるのかを確かめて行政として何ができるのか考えていきたいと思ます。

次に議題の6の中高生へのアンケート項目についてですが、資料7をご覧くださいと思いますが、これは多摩市が次世代育成支援行動計画を策定するにあたって中高生を対象に行った調査項目を載せさせていただいております。府中市では中高生のアンケートは実施していませんが、今後実施したいと考えておりますので、もしこの場で調査項目につ

いて皆さんからご意見をいただければと思っております。なお調査の趣旨、構成については、生活構造研究所からご説明させていただきたいと思っております。

会長

今日、アンケート調査の項目を具体的に決めて固めるのではなく、多摩市については具体的な質問項目が出ていますので、何かご質問があればお願いします。

子育て支援課推進係長

多摩市について説明をさせていただきます。

生活構造研究所

資料7について説明させていただきます。多摩市次世代育成支援に関するニーズ調査中高生世代実態調査の概要です。調査対象は、多摩市全域の12歳～17歳、1,200人です。調査方法は郵送配布、郵送回収です。調査の時期は平成15年11月、回収率は発送数が1,200で、有効回収数が571、有効回収率は47.6%です。調査項目は2ページ以降でご覧いただきたいと思っております。はじめに属性として、年齢、家族の人数、所属学校・就業等、居住区域を聞いています。2番目の調査項目は生活時間で、質問が平日と休日のだいたいの起床時間、平日と休日のだいたいの就寝時間、家の門限を聞いています。3番目は朝食で、朝食は誰とどのように食べているのか聞いています。4番目は平日放課後や休日の過ごし方で、平日の放課後や休日はどう過ごしているか聞いています。選択肢はクラブ活動、習いごと、遊びの内容などとなっています。5番目は利用する公共施設で、公共施設の中で平日や休日によく利用する場所や施設はどこかということと、また利用しない場合に、その理由を自由意見で聞いています。6番目は帰宅後や休日の家庭の状況で、放課後帰宅した時や休日に家に大人が誰がいるか、帰宅時に大人がいない時、食事はどうしているか、どのような気持ちになるか聞いています。7番目は情報源で、世の中の出来事や身近な情報をどうやって知るか聞いています。8番目は地域のグループ活動やボランティア活動への参加で、参加をしているかどうか、どのような活動に参加しているか、参加する理由、参加しない理由を聞いています。9番目は関心ごとで、資料にあるような多種多様な選択肢をあげて関心があるか聞いています。10番目は人間関係で、学校や職場の人間関係でいやなことがあるか、親しい友人を得たきっかけを聞いています。11番目は悩みで、具体的な悩みの内容を聞いています。12番目は相談相手で、悩み事や心配事のあるときには誰に相談するか聞いています。13番目は結婚観で、結婚についてどう思うか、結婚のいくつでしたいか年齢を聞いています。14番目は乳幼児とのかかわり経験で、赤ちゃんや小さい子どもの世話をしたことがあるか聞いています。15番目は将来の職業観で、将来どのような仕事がやりたいか、抽象的な選択肢で聞いています。最後に自由回答で多摩市への期待を聞いています。以上です。

会長

ありがとうございました。これまではどちらかというと就学前のお子さんをお持ちの家庭へのアンケートでしたが、今回は中高生世代へのアンケートを実施するという事です。今日はこの調査をご覧いただき、次回これについてご意見をお持ちください

委員

平成15年の調査なので、この間私が言ったように携帯とかインターネットがのっていないので、携帯を持っているかいないか、利用はどれくらいとか、メールのやりとりはどうだとか、あと職業のところではニートとかフリーターについてどう思うかを聞いてほしいです。

会長

是非そのようなご意見を次回おもちいただければと思います。

委員

無作為抽出とありますが年齢による輪切りになっているのですか。

会長

年齢ごとでしょうか。

子育て支援課推進係長

中学生で600、高校生で600なので、おそらく200ずつ年齢で抽出していると思いますが、4年前のことで今は詳しいことはわかりません。

委員

対象は一緒なのですか。お母さんたちに調査するのですか、対象をどう考えたらいいのですか。

会長

市民意向調査として親への調査と中高生への調査の2本考えています。今後で検討しようということ。今回はこういう形でご意見をいただきたいということをお伝えしないまま、資料をご覧になっていただいたのですが、今回は事務局の方からデータをもとに現況についての説明をうけて、それについて意見交換した上で、アンケート調査についても意見交換したいということ。アンケート調査はまだ先なので、全体の方向性としてこんなアンケート調査をしたいとかお聞きしたいということ。それでよろしいでしょう

か。

子育て支援課長

アンケート調査については20年度で少し先です。次回は子育ての状況として子どもが抱えている環境はどんな状況にあるのかといったことを知っていただいて、その中でどういう方向性で後期行動計画を考えていけばいいのか方向性を示して行ければと思います。次回で全部資料が提出できるかお約束できないのですが、数回にわたるなかでは提出したいと考えております。

会長

前回評価のデータを出していただきましたが、この次も子育ての実態についてデータを出していただけるということですか。

子育て支援課長

基本的には皆さんからご意見をいただくためにはアンケートを実施するのが正論だと思いますが、20年度の実施ですので、際立った状況、たとえば児童虐待はどんな傾向にあるのかといった社会で大きな課題となっていることについて資料提供する中で、皆様方に考えていただければと思っております。

会長

今日準備はできていないのでご意見を伺いましたが、次回も同じことをすると時間の無駄になりますので、今回は議論することを明確にさせていただいて、それについて事業としてこんなことがあるという形で議論していけばよろしいですか。

子育て支援課長

そういう方向で考えております。

会長

これまでの協議会で配られた資料はもってきたほうがよろしいですか。

子育て支援課長

新しい資料をご用意いたします。

会長

その他に何かありますか。

議題7 その他

子育て支援課推進係長

資料の準備の関係から早ければ秋口くらいに資料とあわせてご通知をしてお集まりいただく機会を設けたいと思うのですが、国の動向を待ちたい部分もございますので、場合によっては年を越してからになるかもしれないのですが、それも含めて一度ご通知をさせていただきますので、それをもってお集まりいただく機会を設けさせていただきたいと思います。秋口に必ずということが不確定な部分があるのですが、国の動向を見ながらお示しできるようお時間をいただくかもしれませんのでよろしくお願いいたします。

会長

次回の日程は未定ということです。

子育て支援課長

ありがとうございました。

会長

これで第3回府中市次世代育成支援行動計画推進協議会を終了します。ご協力ありがとうございました。

以上